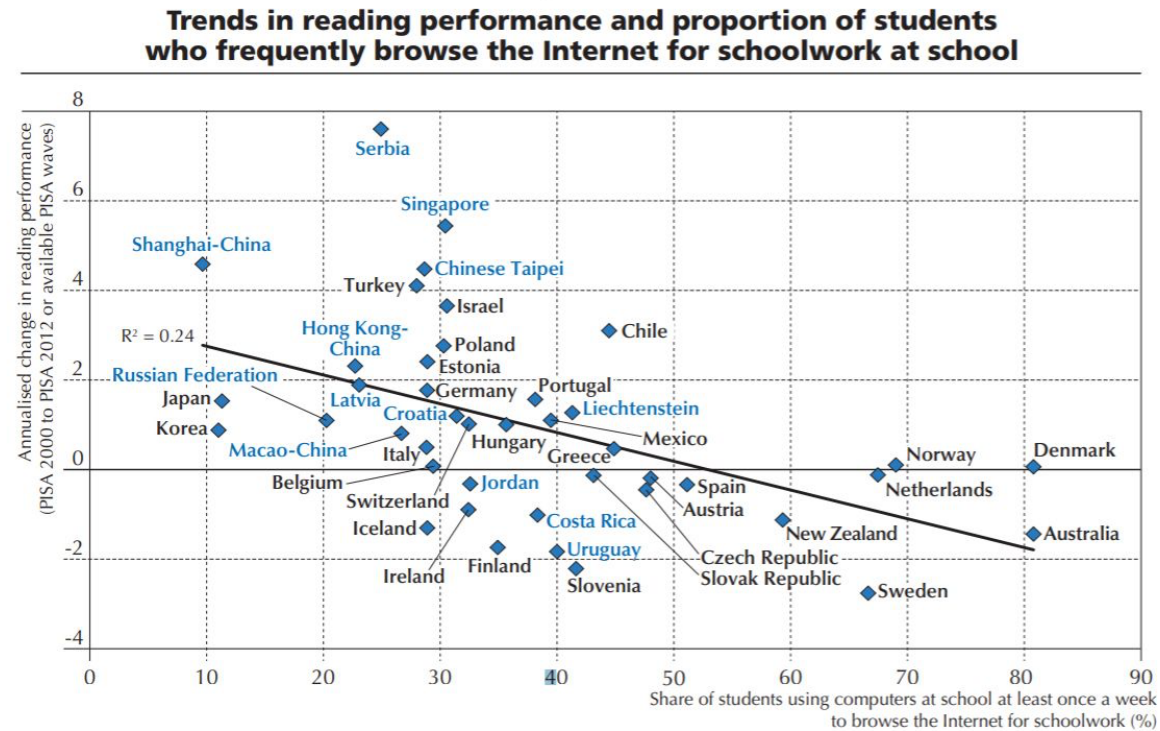


- 1 教育改革における授業スタイル
の改善について
- 2 食料自給率向上と市の農業振興
について

久保田 江美

図表2 授業中のインターネット利用頻度と読解力の関係

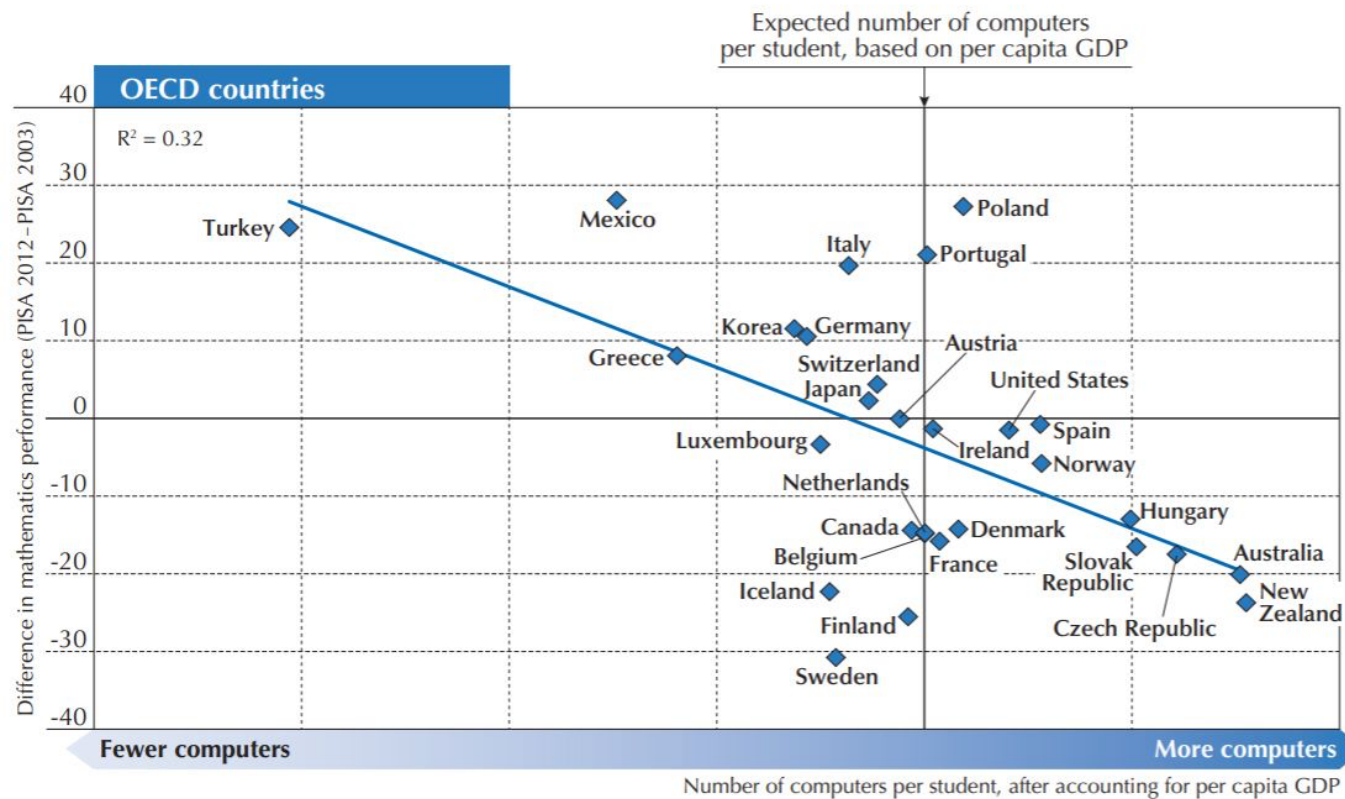


Notes: The annualised change is the average annual change in PISA score points. It is calculated taking into account all of a country's and economy's participation in PISA.

Source: OECD, PISA 2012 Database, Table I.4.3b (OECD, 2014) and Table 2.1.

出所＝OECD (2015), Students, Computers and Learning: Making the Connection, PISA, OECD Publishing

図表1 学校のパソコン保有数と数学力の関係



出所＝OECD (2015), Students, Computers and Learning: Making the Connection, PISA, OECD Publishing

令和5年度学校保健統計 調査結果のポイント

【健康状態調査】

- (1) 裸眼視力1.0未満の者の割合は、学校段階が進むにつれて高くなっており、小学校で3割を超えて、中学校では約6割、高等学校では7割近くとなっている。
- (2) むし歯(う歯)の者の割合は、小学校・高等学校で4割を下回り、幼稚園・中学校では3割を下回っている。
- (3) 鼻・副鼻腔疾患を持つ者の割合は、小学校・中学校で1割程度となっている。

※なお、いずれの項目も調査時期の影響が含まれるため、令和2年度～令和4年度に引き続き令和5年度の数値についても、令和元年度までの数値と比較はできない。

○主な疾病・異常等の推移

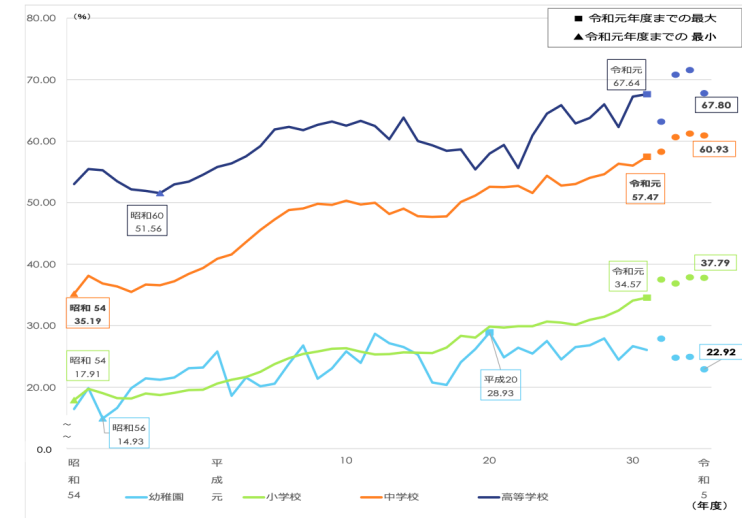
区分	裸眼視力1.0未満の者	眼の疾病・異常	耳の疾患	鼻・副鼻腔疾患	むし歯(う歯)	アトピー性皮膚炎	ぜん息	心電図異常(注1)	蛋白検出の者
幼稚園	平成25年度 24.53	2.09	2.58	3.44	39.51	2.39	2.13	...	0.89
	30 26.68	1.55	2.31	2.91	35.10	1.56	...	...	1.03
	令和元 26.06	1.92	2.57	3.21	31.16	2.31	1.83	...	1.02
	2 27.90	1.36	1.97	2.38	30.34	1.90	1.64	...	1.00
	3 24.81	1.48	2.00	2.96	26.49	1.75	1.48	...	0.66
	4 24.95	1.27	2.36	3.03	24.93	1.62	1.11	...	0.87
小学校	5 22.92	1.63	2.19	2.99	22.55	1.48	1.15	...	1.12
	平成25年度 30.52	5.32	5.43	12.07	54.14	3.06	4.15	2.62	0.74
	30 34.10	5.70	6.47	13.04	45.30	3.40	3.51	2.40	0.80
	令和元 34.57	5.60	6.32	11.81	44.82	3.33	3.37	2.42	1.03
	2 37.52	4.78	6.14	11.02	40.21	3.18	3.31	2.52	0.93
	3 36.87	5.13	6.76	11.87	39.04	3.20	3.27	2.50	0.87
中学校	4 37.88	5.28	6.60	11.44	37.02	3.14	2.85	2.55	0.98
	5 37.79	5.32	6.28	12.38	34.81	3.25	2.87	2.44	0.84
	平成25年度 52.79	4.63	3.89	11.11	44.59	2.48	3.22	3.44	2.45
	30 56.04	4.87	4.72	10.99	35.41	2.85	2.71	3.27	2.91
	令和元 57.47	5.38	4.71	12.10	34.00	2.87	2.60	3.27	3.35
	2 58.29	4.66	5.01	10.21	32.16	2.86	2.59	3.33	3.25
高等学校	3 60.66	4.84	4.89	10.06	30.38	2.95	2.31	3.07	2.80
	4 61.23	4.95	4.76	10.70	28.24	2.96	2.23	3.15	2.90
	5 60.93	5.08	4.87	10.48	27.95	2.99	2.00	3.21	2.80
	平成25年度 65.84	3.26	2.15	8.74	55.12	2.14	1.90	3.19	2.68
	30 67.23	3.94	2.45	9.85	45.36	2.58	1.78	3.34	2.94
	令和元 67.64	3.69	2.87	9.92	43.63	2.44	1.79	3.27	3.40
高等学校	2 63.17	3.56	2.47	6.88	41.66	2.44	1.75	3.30	3.19
	3 70.81	3.35	2.51	8.81	39.77	2.58	1.70	3.16	2.80
	4 71.56	3.58	2.25	8.51	38.30	2.68	1.71	3.03	2.83
	5 67.80	3.57	2.63	7.60	36.38	2.39	1.50	3.08	2.52

注1: 「心電図異常」については、6歳、12歳及び15歳のみ調査を実施している。

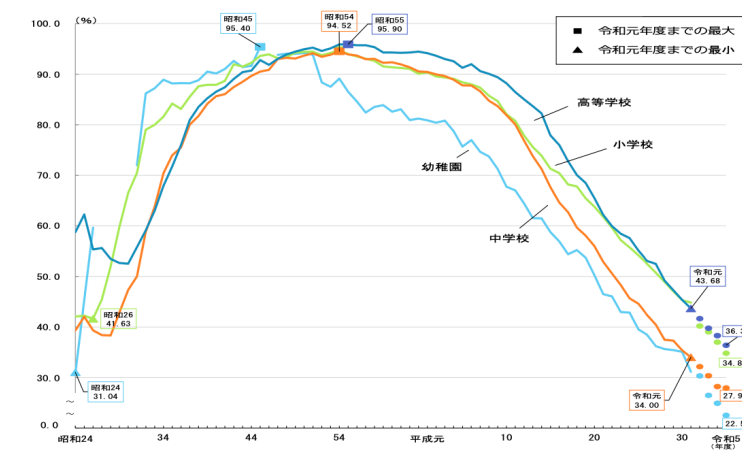
過去最大(令和元年度までの値の比較)

過去最小(令和元年度までの値の比較)

○「裸眼視力1.0 未満の者」の割合



○むし歯(う歯)の者の割合



注: 幼稚園については、昭和27～30年度及び昭和46年度は調査していない。

文部科学省HP
より

高杉晋作の見た清国

高杉晋作は二十四歳のときに、長州藩の命令で、清国に行きました。日本より前に、西洋によって開国させられた清国の様子を見るためです。

上海（シャンハイ）につくと、晋作はおどろきました。清国に来たはずなのにそこはまるで西洋の国のようだったからです。たくさんの西洋の船や軍艦が港をふさぐようにとまっています。港町には西洋風の建物がならび、屋根には西洋の国旗をなびかせています。

さらに町の中を歩いてみるともっと驚くことが見られました。お金をはらわなければ通れない有料の橋があり、しかも、お金をはらっているのは清国人だけで、西洋人はただで通れるのです。アジア第一の大国である清国が、西洋の国に支配されたような国になってしまっていたのです。

晋作は、日記にこう書いています。

「中国人はまるで西洋人のめしつかいのようだ。イギリス人やフランス人が道を歩いてくると、中国人ははじに寄って彼らに道をゆずっている。上海は中国の領土だが、これではイギリスやフランスの植民地になってしまったのと同じことだ。」

こうして、晋作は日本の危機の本当の意味がわかったのです。

清国のひさんな現実を見た晋作はこう考えました。

「世界は弱肉強食の時代になっている。西洋は軍事力にものをいわせて、アジアを支配している。まちがったつきあい方をすると西洋人の思うがままにされてしまうのだ。西洋のめしつかいのような清国のひさんな姿は、明日の日本の姿になりかねない。このままではいけない！」

[逆引き事典から探す](#)[組織別から探す](#)[キーワードから探す](#)

Google 提供

検索

[会見・報道・広報](#)[政策情報](#)[統計情報](#)[申請・お問い合わせ](#)[農林水産省について](#)[ホーム](#) > [統計情報](#) > [農林水産基本データ集](#) > 農業労働力に関する統計

農業労働力に関する統計

基幹的農業従事者（個人経営体）

単位：万人、歳

	平成 27年	令和 2年	3年	4年	5年	6年
基幹的農業従事者	175.7	136.3	130.2	122.6	116.4	111.4
うち女性	75.1	54.1	51.2	48.0	45.2	43.1
うち65歳以上	114.0	94.9	90.5	86.0	82.3	79.9
平均年齢	67.1	67.8	67.9	68.4	68.7	69.2

資料：農林業センサス、農業構造動態調査（農林水産省統計部）

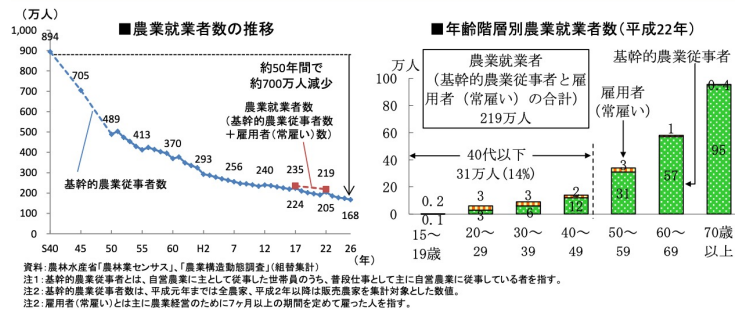
注：1 「基幹的農業従事者」とは、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

：2 平成27年、令和2年は全数調査で実施した農林業センサスの結果であるのに対し、令和3年～6年は標本調査で実施した農業構造動態調査の結果であり、表章されている値は推定値であることから、直接比較して利用する場合には留意する必要がある。

8. 我が国の食料事情について（4）

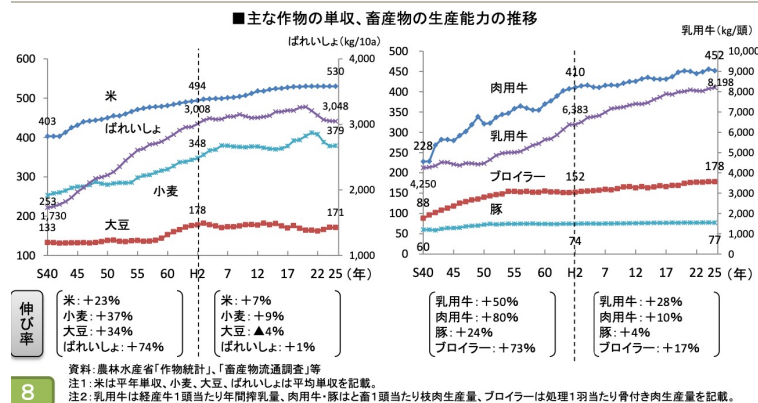
○ 農業就業者の減少・高齢化

基幹的農業従事者数は、農村部から都市部への人口流出等により、この約50年間で約700万人減少（▲81%）しました。また、農業就業者は、65歳以上が約6割となるなど、年齢構成のアンバランスが顕著となっています。



○ 農産物の単収と畜産物の生産能力の推移

耕種作物の単収及び畜産物の生産能力は、品種・家畜の改良、栽培・飼養管理技術等の向上等により増加してきましたが、近年は品種改良や栽培管理技術向上の一巡等により、その伸びが鈍化している状況です。



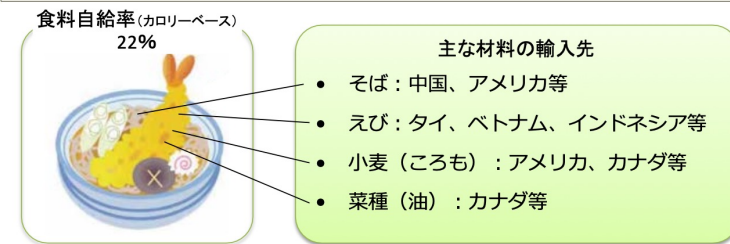
8

第Ⅱ部 食料自給率・食料自給力

1. 私達の食卓における自給率

○ 天ぷらそばの食料自給率

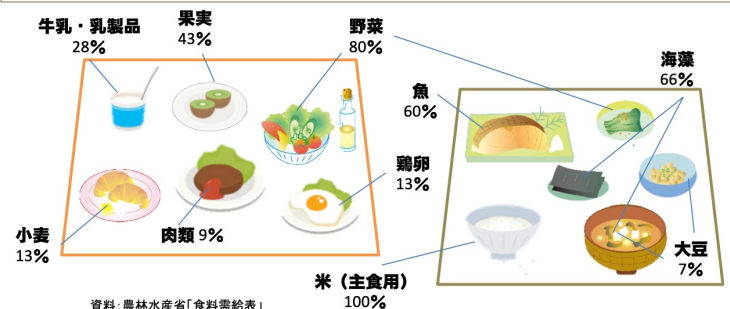
天ぷらそばは日本食ですが、その食料自給率（カロリーベース）は22%です。これは、そばは中国産、えびはベトナム産など、多くの材料を輸入に頼っているためです。



資料：農林水産省「食料需給表」、財務省「貿易統計」等
 注：数値は平成26年度 (概算値)

○ 私達の食卓における品目別自給率

食料自給率（国内で消費する食料が国内生産によってどの程度賄えているかを表した割合）は、品目により異なります。品目別自給率をみると、高い国内生産能力を有する米で高い一方、家畜の飼料の多くを輸入に頼っている肉類等で低い水準にあります。

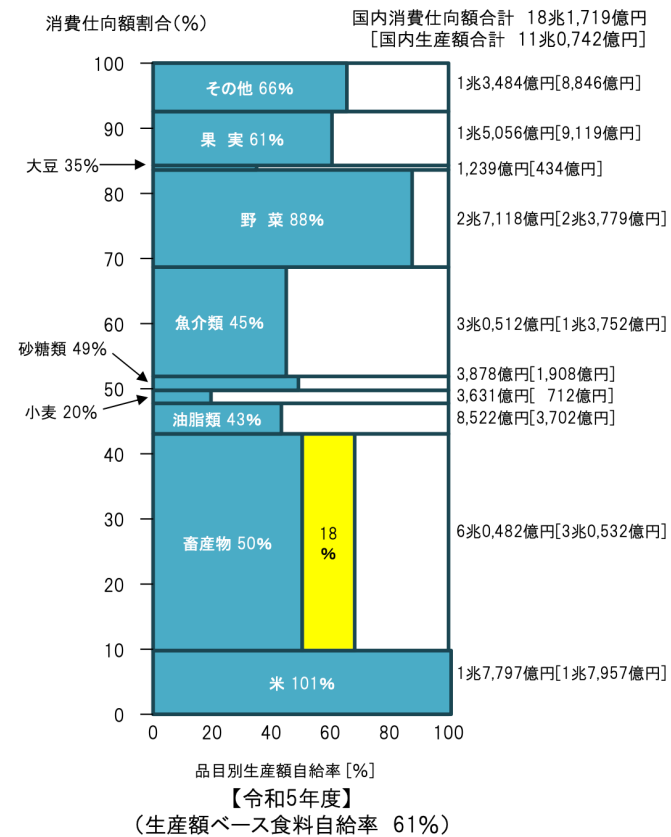
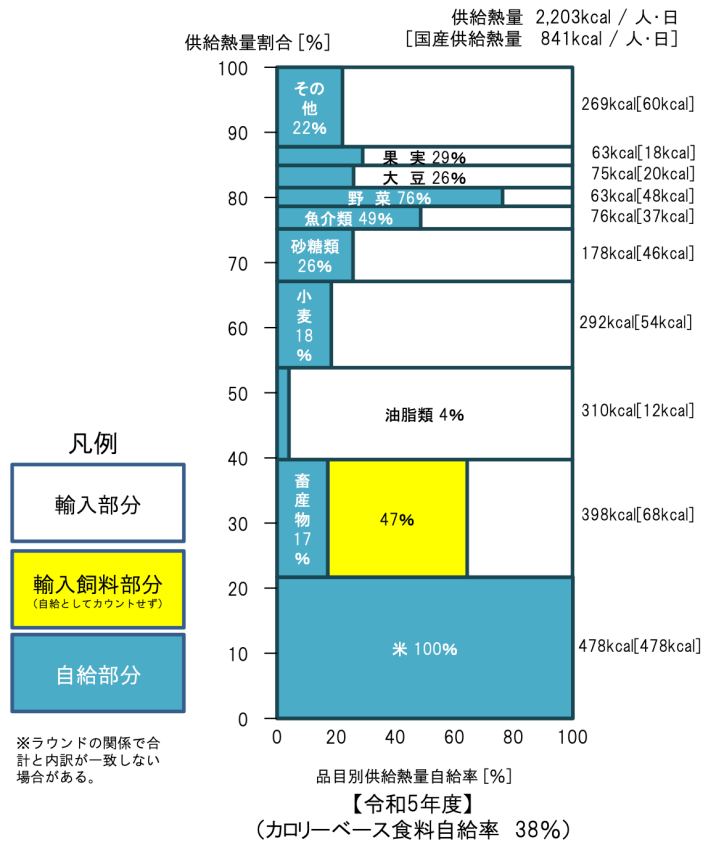


資料：農林水産省「食料需給表」
 注1：数値は平成26年度 (概算値)
 注2：畜産物 (牛乳・乳製品、肉類及び鶏卵) については、飼料自給率を考慮している。

9

食料自給率 ③

食料消費の構造と食料自給率(令和5年度)



学校給食における地場産物及び国産食材の使用割合(令和4年度)

No.	都道府県名	地場産物	国産食材
1	北海道	71.4%	91.0%
2	青森県	70.2%	90.5%
3	岩手県	60.9%	93.0%
4	宮城県	56.5%	87.3%
5	秋田県	47.5%	83.4%
6	山形県	59.6%	90.4%
7	福島県	62.9%	87.9%
8	茨城県	74.4%	89.4%
9	栃木県	76.0%	94.5%
10	群馬県	62.6%	87.2%
11	埼玉県	41.1%	86.3%
12	千葉県	54.4%	89.4%
13	東京都	7.7%	87.5%
14	神奈川県	31.8%	84.1%
15	新潟県	61.4%	89.0%
16	富山県	57.0%	86.2%
17	石川県	58.4%	92.7%
18	福井県	35.2%	90.1%
19	山梨県	65.8%	87.3%
20	長野県	69.2%	95.1%
21	岐阜県	60.3%	89.2%
22	静岡県	61.1%	91.7%
23	愛知県	59.1%	89.1%

24	三重県	57.8%	90.7%
25	滋賀県	52.6%	90.7%
26	京都府	18.6%	89.0%
27	大阪府	6.9%	88.1%
28	兵庫県	49.5%	85.8%
29	奈良県	33.8%	83.2%
30	和歌山県	28.4%	89.4%
31	鳥取県	75.3%	95.7%
32	島根県	75.5%	95.8%
33	岡山県	61.7%	89.8%
34	広島県	60.3%	89.4%
35	山口県	85.6%	96.3%
36	徳島県	69.4%	88.0%
37	香川県	52.2%	86.0%
38	愛媛県	74.1%	93.4%
39	高知県	60.2%	95.3%
40	福岡県	51.9%	83.4%
41	佐賀県	58.5%	87.8%
42	長崎県	72.5%	88.9%
43	熊本県	64.2%	87.7%
44	大分県	69.0%	90.9%
45	宮崎県	66.3%	88.7%
46	鹿児島県	66.2%	87.6%
47	沖縄県	31.2%	75.5%
	全国平均	56.5%	89.2%

※ 金額ベース